

## 分科会1「湘南里川づくりみんなの会～今後の活動展開に関して～」

担当コーディネーター 藤野 裕弘、小巻 慎吾

【概要】湘南里川づくりみんなの会が目指すビジョンを達成するためには、これまでの活動を超えたさらに積極的で具体的な活動が求められている。これから我々はどのような活動を行い、市民活動として発展させていったらよいかについて意見交換を行った。

まず、具体的活動のためには、明確な目標設定が必要という意見があった。

○目的をはっきりさせ、具体的な活動をし、個人、団体会員の多くの参加を得る。

○里川という言葉の定義は多様だが、里川づくりの目標をきれいな水、自然・生物が豊か、ゴミがない、子供が遊べる、地域の人との密接なつながりのある川など市民が求めるものに設定する。

○会員個々の点の目的は明確なので、その点をどうしたいのかをはっきりさせるなどの意見があった。

また、活動の方向性として、

○里川づくりの意義を感じていない9割の人を動かす活動をする

○自然を宝とし、それを観光資源として地域活性化を図る

○地域で活動をしている方の声を拾い、活動につなげていく

○世の中に見える活動をしていく必要がある

というように、会員の中だけでなく、広くみんなの会の活動が知れ渡るような活動を行うことが多くの市民の関心と呼び、行政に対してもアピールできるとの意見があった。

具体的にどのような活動ができるかについて、

○多地域のロータリークラブが川の一斉清掃をして交流できるようなイベントを里川づくりの一環としてコーディネートする。

○市民向けの川の一斉清掃をコーディネートする。

など、多くの市民を巻き込んだ川のゴミ拾いという活動が目に見えてわかりやすいということで提案された。一方で、

○ゴミ拾いでも短期的なものではなく、地域の住民が継続的にできるような長期的な目線での活動につなげる必要がある

という意見があり、短期から長期までの幅広い目標設定にあわせた活動が考えられるが、どれを優先すべきかについて考える必要があるとの意見もあった。

コーディネーターより、今後の会の活動が楽しい活動だけではなく、里川づくりのビジョンの啓発を含めたものにならないければ、里川づくりのすそ野を広げることにならない。地域の河川改修などがあつたら多自然型の川づくりへの声をあげられるような地域を作って

いくことが理想であり、私たちの会がそのよりよい形を提案できるようになることが集大成なのではないか、との話があった。参加者からは、

○これからの活動は里川づくりの会のしくみを考えて、行政のそれにふさわしい担当部署にかかわってもらうことで積極的な活動につながる。ここで話した具体的な提案内容を実現するための検討会として、地域フォーラムが開催されてほしいとの意見があった。

分科会1では、これまで協議会としての性格が強かったみんなの会であるが、これからはビジョンの達成のために積極的にみんなの会として行動を起こしたい、起こしてほしい、との方向性が確認できた。

## 湘南里川づくりフォーラム2018

### 分科会②報告 ～キラキラ光る金目川を目指して～

●日時場所：2018年2月4日（日）10:00-15:30 東海大学湘南校舎 13号館 201教室

1. 分科会② 11:50-13:00 場所 13-202教室

2. 分科会参加者 12名

3. 進行（柳川氏）

（1）参加者自己紹介

（2）報告Ⅰ：西岡氏 11:50-12:15

①金目川水系流域ネットワークの紹介、かながわ地球環境賞の受賞報告

②金目川流域水系と自然環境を支える水環境

③金目川水系の地表水の様子、水田開発と金目川の水循環

④森林は、裸地に比べ3倍もの水を蓄える

森林（258）＞草地（128）＞裸地（79）

⑤森林により、過剰な窒素やリンを吸収すると共に、Ca, Naなどを土壤に増やす

（3）報告Ⅱ：府川氏 12:15-12:50

①金目川水源の春嶽山は、日量800トン

②金目川は全長21KMを経て、相模湾に至る

③金目川のアユ、ボウズハゼ、ニホンウナギが生息

（4）参加者からの提案意見等

- ・下水処理の整備と河川整備で川がキレイになって魚は増えてきたが、一方では、キレイな水は栄養分が少なくなり、河川整備による流れの変化等で、魚にとっては棲みづらい環境になっている心配がある。（意見交換）
- ・下水処理場は川の浄化に効果あるが、排出される水温が4℃程度高い、影響ないか
- ・魚道を作るよう行政に提案したい
- ・昔より、農業用水としての利用は減少したはずなので、治水政策も見直しを提案

（5）分科会②まとめ報告（柳川氏）

①東海大学と一緒に実施している金目川・親子生き物観察会が定着しつつあり、地域の親子が楽しみにしてくれているのが嬉しい。

子どもと親の世代は、将来の環境保全への大切な層となるのが期待できる。

②9年前から金目川下流を中心とした清掃活動を継続。次回も3月に予定。

③川と地域のふれあいが良い方向にあると感じている。

④神奈川県は海岸のMP（マイクロプラスチック）調査を本格化する計画があり、協力していきたい。

以上 分科会レポート 吉田和史

### 分科会3 「長期的に見た地域活性化 ～金目川水系の今後～」

○担当コーディネーター

大崎雄介 石井孝佳 的場陽斗 吉岡弥幸 関雄

(東海大学 教養学部人間環境学科自然環境課程)

#### 【概要】

まず、本フォーラムの大テーマである「金目川水系の今後」という言葉を聞いて、私達は「人」「川」「地域」「関わり」「自然」等の単語を連想した。それらは全て「地域活性化」に繋げることができるとし、分科会Ⅲのテーマとした。実際の発表では、金目川水系を長期に渡り活性化するためには若者の興味を引くようなイベントを企画する必要があるということ、他の水系で実際に行われているイベントの例を挙げながら提案し、議論した。

#### 【分科会の流れ】

##### ① 学生による発表

私達は金目川水系が活性化するには多くの人に興味をもってイベントに参加してもらうことが重要だと考えた。また、長期的に地域を活性化させるためにはサイクルの継続的な循環が必要ではないだろうか、意見がまとまった。そのサイクルとは、「川」を利用したイベントを開催し、少しでも多くの人に足を運んでもらう。そして、「川」に関心を持ってもらう。すると、BBQやウォーキング、写真などで地域の人達が日常的に川を利用するようになって考えた。それが先輩から後輩へ、親から子へと世代を超えて広がり後世へと広がることで、次にイベントへ来るきっかけにもなる。私達は、この「イベント」「関心」「日常利用」「後世に伝える」というサイクルを継続的に続けていくことで長期的に地域が活性化すると考えた。そして、このサイクルを継続するためにより川へ関心を持ってもらうイベントの提案をした。



図1 発表の様子

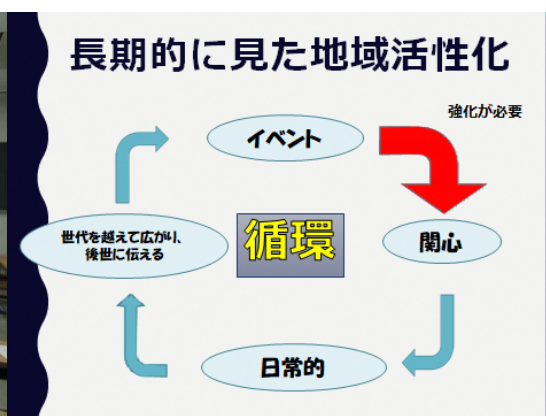


図2 イベントの循環図

## ② 当日行われた議論

議論の際にいただいた意見は大きく分けて 2 種類であった。1 つは、私達分科会Ⅲ班の発表ではイベントで「人を呼ぶ」ことに重きを置きすぎている、とのご意見であった。現在、金目川水系で行われている「アジサイ祭り」や「さくら祭り」の来客数は年々増加傾向とこのことである。その為、私達には「人を呼ぶ」部分よりも「関心を持ってもらう」部分に力を入れた提案をして欲しいとのご意見を頂いた。2 つ目の意見は、イベントに力を入れるのは良いが、その前段階にも力を入れて欲しいというものであった。現在、川に関心を持っている会員は高齢の方が多くなってきている。その為、イベントの前に行う草刈りがとても大変で、できれば若い世代の人の力を借りたい、とのことであった。それらの頂いた意見を踏まえて私達は、まずは自分たちが 1 度そういったイベントに参加してみる必要があると考えた。分科会Ⅲ班のメンバーにはイベントに参加した経験のある者がおらず、発表内容を考える際も全て推測に基づいて考えていた。その為、このような課題が出たと考えた。また、イベントの前段階の草刈りについては、情報発信をどのような形で行うか、という事も議論に上がった。議論の内容としては、今どきの若者は Twitter や Facebook、line といった SNS を多く使用しているので草刈り等の情報も SNS を利用すれば良いのではないかと、というものであった。また、若者にどのようにしてイベントに参加してもらうか、という部分に対する意見として、イベントに付加価値を付けてみてはどうか、というものもあった。

最終的な結論としては、まず私達自身がイベントに参加することで、河川の保全に対する意識を深め、課題を見つけ、解決ことが重要だと考えた。



図 2 議論の様子

### 【まとめ】

私達の発表は、どのようなイベントを企画・開催すれば人が集まるのか、という部分に着目したものであった。しかし、参加者側からは「もっと具体的な提案」をして欲しいとの意見がみられた。また、発表や議論を通して「川への関心」や「若者」の大切さが良くわ

かった。これからは、人が楽しいと感じる活動を行い、若手の関心を引き、継続し、後世に残していくことが金目川水系における里川づくりにつながるのではないかと考えた。

## 分科会4「水と人を結ぶ～金目川水系の歴史を踏まえて～」

担当コーディネーター

・長田啓祐 祝嶺涼太郎 佐藤克哉 小佐野博史 大沼直輝 三條場菜々  
(東海大学 教養学部人間環境学科自然環境課程)

### 【概要】

本分科会では、金目川水系の歴史などを調査し、この歴史を踏まえた金目川の様々な魅力をどう地域住民や、より多くの人々に伝え、興味を持ってもらえるのかについて考えた。そこで、現代社会において若者を中心とした多くの人々に利用されている SNS (Social Networking Service) を活用し、金目川の魅力について発信することで、それを見た多くの人々に金目川に興味を持ってもらうことができ、金目川の今後につながるのではないかとという提案をし、議論を行った。



図 1. 学生が発表したスライド(一部)

### 【分科会の流れ】

#### ① 学生による発表

私たちは、今回の分科会では金目川の今後について考えるということで、まず金目川水系のこれまでの歴史と現状について調査することとした。調査の結果、金目川は江戸時代から人々に利用されてきた一方で、比較的急流であるなどの問題から、たびたび洪水が発生し「暴れ川」などと呼ばれていたということ、そこで人々は水神様を祭り、水の恵みに感謝し、洪水除けを祈念してきたということがわかった。このことから私たちは、金目川水系には非常に人とつながりがある興味深い歴史や、水神様などの魅力的なものが現存しているという風に考えた。しかしながら調査の過程で金目川水系の情報が少なかったことから、地域の人をはじめ、多くの人にあまり知られていないという現状があると考えた。そこで現在若者を中心に多くの人々に利用されている、SNS を活用することにより、多くの人々に金目川水系について知ってもらい、興味を持ってもらうことで、金目川水系の今後につながるのではないかとという考えを伝えた。



図 2. 分科会の様子

また SNS の一つである twitter を実際に使い金目川水系の風景や水神などを投稿した結果や、SNS が実際に地域復興につながったという事例なども上げた。

## ②当日行われた議論について

今回の議論で私たちの提案に対して議論を行った結果、様々な提案や意見が上げられた。特に SNS での魅力の発信について多くの意見が出た。まず、なかなか多くの人に投稿が広まらないという問題があるということ、そしてこの問題に対して SNS などのデジタルな方法だけでなく、チラシやポスターなどアナログな方法での拡散や、他の団体と連携することにより、多くの人々に宣伝することができるのではないかという意見が出た。次に、発信したい対象が金目川水系の地域の人々なのか、それとも日本、あるいは日本に観光などに来る外国人なども視野に入れたものなのかどうか分かりづらいという意見も出た。さらに、投稿を見てもらった人たちに興味を持ってもらった後はどう動いていくのか、たとえば川に関連したイベントなどを開くなど今後の展開について考えるべきではないかという意見も出た。

また、今後発信すべき金目川の魅力について伺ったところ、金目川は農産物が多く、歴史も長いといった魅力や、都市部に近い市に多くの自然が残っているという魅力などが挙げられた。また具体的に魅力的な場所として秦野市にある髭僧の滝や葛葉緑地などが挙げられた。



図 3. 議論の様子 1



図 4. 議論の様子 2

## 【まとめ】

私たちが提案した SNS を用いて金目川水系の魅力を伝えるという案は、対象の人々がはっきりとしていない点や確実により多くの人々に伝える具体的手段が無い点などの問題が挙げられたけれども、SNS を活用していくこと自体は現代の若者にあった新しい提案であり、今後活用していけるのではないかという結論に至った。また、興味を持ってもらった後は具体的にどう行動していくことが今後 SNS を活用していく上で重要であるという意見でまとまりました。